

第6回 行財政改革官民協働委員会議事概要

日 時	平成26年1月17日（金） 15:00～16:50
会 場	本庁3階 大会議室
出席者	佐藤委員（委員長）、西川委員（副委員長）、山本（守）委員、山本（寛）委員、伊藤委員、磯部委員、河原委員、後藤委員、市橋委員、清水委員、金子委員、尾瀨委員 欠席：田村委員（アドバイザー）、萩野委員
議 題	① 公共施設の整理統廃合計画（案）について ② 佐渡市将来ビジョンについて ③ その他
議事概要	<p>①（事務局説明）</p> <p>平成31年度までに見直しを進めると、民間譲渡や解体撤去等により、107施設が削除、13施設が追加、3施設が用途変更、33施設が廃止となり、全体では127施設が減少し、約2億8千万円の経費削減が見込まれる。</p> <p>（管理運営経費が増額となっている施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園管理⇒市の直営からアウトソーシング ・児童遊園⇒遊具等の点検を定期的に行っていなかったものを管理経費に含め、委託 ・その他の公園⇒トキふれあい施設の運用開始 ・観光施設⇒佐渡インフォメーションセンターの完成 ・集会施設⇒金井コミュニティセンター運用再開 ・学校給食施設⇒南部学校給食センター、相川学校給食センターの新設。両津学校給食センターの立て替えによるもの。各小中学校の自校給食分の経費は各小中学校の物件費減額分に含まれている。 ・体育館⇒佐渡市総合体育館の完成 ・消防庁舎⇒相川支所と合築の相川消防署の完成 ・本庁舎⇒本庁舎増築 <p>【委員からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政計画の平成31年度の物件費の目標値と今回の約2億8千万の削減という数字の比較はどのようなものか教えていただきたい。 <p>⇒財政計画で見ると平成24年度の物件費の額が57億5千万円を42億10千万円まで縮小するという数字。</p> <p>施設の物件費であれば、あと5億円くらいは数字を落とさないといけない数字となっているが、今後どのようにして削減していかなければならないか検討が必要。実現するには、地域の施設をほとんど無くしないと達成できない数字であり、実現するのは非常に難しいと考えている。</p> <p>また、新しい大規模施設が建設されるため、削減していても効果がなかなか望めない。施設で不可能であれば、どこで行うのかを検</p>

<p>討しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支所の耐震工事等の経費は含まれているのか。 <p>⇒施設の維持管理経費のため、ここには含まれていないが、全体の経費の中では、普通建設事業費となるため、こちらも削減を考えていかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体の物件費の割合と佐渡の場合の比較はどうか。 <p>⇒標準財政規模を基本として考えると、現在のところは、枠内に入っているが、今後交付税削減の中では、削減しないと他にしわ寄せがいつてしまうというもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字だけで削減と言うのは簡単だが、しわ寄せは周辺部に來るので、そこは心配。 <p>⇒施設の利用料の増額も考慮していかなければならないが、利用者への負担がかかってしまうので難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火葬場の廃止により、市民（個人）の使用料の負担が増えた。そういうことも考慮に入れてやってもらいたい。 ・目標値を決めてそれに向かって進めていくという方向でよいと思う。 ・過疎地の合併浄化槽等があったかと思うが、それは入っていないか。 <p>⇒下水道特別会計となるため、今回の表には反映していない。企業会計ということで、一般会計からの繰り出しを抑えるということでやっている。</p> <p>②（事務局説明）佐渡市将来ビジョンは本委員会でも意見をもらい、修正したものが最終版となったため、報告。12月25日に議会の委員会に配布。</p> <p>（議員からの意見）</p> <p>アウトソーシング</p> <p>財政計画上の人員費と職員数との矛盾</p> <p>庁舎整備の借地解消</p> <p>観光客の交流人口の拡大</p> <p>パブコメ全214件</p> <p>行政改革20件（図書館、体育館等の統廃合への意見）</p> <p>庁舎整備164件（新穂地区から行政サービスセンターの意見が多数、本庁舎は18件）</p> <p>成長力強化戦略30件（産業振興8件、観光交流人口8件、交通インフラ整備5件、安全な地域づくり3件、人材の育成確保6件、戦略指標2件）</p>
--

《委員からの意見等》

・前回の中間報告からの比較として、内容を具体的に記載されているため、非常にわかりやすくなった。(P40 成長力戦略説明部分)

・地域若者サポートステーションとは何か。

職業訓練校に入っている。佐渡はサテライト型ということで、相談機能を持った施設。就業に結び付けられるように相談していくというもの。ニート対策の一環。実際に6名が就職に就いた。

・議会の承認が必要なものか。また庁舎の計画を直すという話にならないかどうか。

⇒承認は必要なく、報告という形である。

基本設計に入る前に、外部の委員等の意見を聞き、基本計画を作成し、基本設計、実施設計と進めていく予定。

実際に事業を進めていくには予算が必要となるため、それには議会の議決が必要なため、委員会等で調整されていくという形。

・シティプロモーション (P46) とは具体的にどのような取り組みを行うのか。まだ、PR が弱いという印象がある。

⇒佐渡市は外に出していくプロモーションが苦手ということがあるため、広報戦略官や観光戦略官を活用し、外に発信していくということ。

・「おもてなし」の向上 (P46) で観光客は佐渡の料理を味わってもらえているのかどうか。料理がまずければ二度とこない。冷凍の製品でない、本当の味を知ってほしい。

⇒リピートを高めるためには食が重要であり、地産地消の推進をしながら、農家とホテルをつなぐ取り組みで、地域の方が作ったじゃがいもなどを料理に使うということもやっている。

島外から来るお客さんは、いいものを安くという志向があるが、旅行の一人あたりの単価をあげても良いものを提供する。個人客の満足度を高めるには何をしたらいいかをホテル自身も認識する必要があるため、「加賀屋」でのマナーや料理を学ぶことでリピーターの増加を見込む。

③ その他

・伝統文化を小学生に体験させる (太鼓を叩く等) というのは市の方でバックアップはないか。高齢者のなりわいとはどういうことか。

⇒キャリア教育 (高校生まで) で佐渡のよさを分かってもらうために佐渡学ということで行ってもらっている。(1時間程度) 佐渡おけさを踊れるようにするなど、佐渡の良さを分かってもらう。

高齢者の働く仕組みづくりとしては、農業の方から、庭先集荷を始めている。(自分で作った野菜などを売り、ビジネスにする仕組み

	<p>づくり。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策が重要。戻ってきてもらう策が重要。 <p>福島県矢祭町は子供が生まれる度に誕生祝金の支給を行ったら、若い世帯が増えたという事例もある。</p> <p>⇒雇用の問題が重要。聖籠町も若い世帯が増えているが、近くに働く場があるということがある。佐渡の場合、島で全てを完結しなければならぬため、そのあたりを現在も検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内交通体系の整備（P49）での方向性が見えない。バスロータリーの整備を佐渡総合病院に渡した中で、交通網の構築をするという記載があるが、どのような方向性なのかが見えない。（周辺の駐車場を整備するのか、バス路線で関わるのか等） <p>⇒佐渡総合病院のロータリーが出来た段階で生活路線の協議会でどういう体系が良いか検討していくということで聞いている。</p>
<p>次回検討事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は未定。日程等は後日調整。